

## ◆動きの言葉をあつめよう

|   |
|---|
| <b>1 対象児童生徒（対象学級）の実態</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学部1年 知的障害 2名</li><li>・話をしようと意欲的ではあるが、身振りや擬態語で表したりすることが多く、正しい言葉が理解できていない。</li></ul>   |
| <b>2 指導目標</b> <p>ビデオを見て何をしているのかを簡単な言葉で表すことができる。</p>   |
| <b>3 取組の中心となる教科・領域等</b> <p>国語科「動きの言葉をあつめよう」</p>   |
| <b>4 使用したアプリ、周辺機器</b> <p>アプリ：ビデオカメラ機能</p>   |
| <b>5 指導の経過及び児童生徒の変容</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・10月下旬より iPad のカメラ機能を使用して児童が写真を撮るようにした。校外学習で活動の様子をたくさん写真に撮り、児童にも見せた。iPad をカメラとして使用することで意欲が高まってきた。</li><li>・本単元の学習を進めるために、教師が児童の様子を動画に撮って提示するようにした。「鉛筆を削る。」様子の動画を見せ、何をしているのかを問うと、身振りを交えながら「鉛筆」や「ジッ」という答えが返ってきた。そこで、「鉛筆を削る」と教えた。発音がはっきりしないこともあるので、教師がゆっくりと発音をして児童にまねをさせるようにした。学習のまとめとして、プリントの視写をさせた。</li><li>・次時の学習で、前時の動画を見せて復習をすると、すぐには「削る」は言葉として出なかったが、「け」とヒントの音を言うと、「削る」の言葉が出てきた。動きと言葉がすぐに結びついて理解できたことを実感した。</li><li>・1時間の授業で動きを表す言葉を4つ程度学習するようにした。全体で18個の動きを表す言葉を学習した。</li><li>・児童が動画を撮り、それをすぐに見るという活動も仕組んだ。すぐに見るという活動は児童にとってうれしいことのように、「見せて」と要求してきた。学習への取り組みの意欲が高かった。</li></ul> |
| <b>6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・タブレット端末の良さとしての手早く動画を教材として準備できることと、ズームして部分的に大きくすることもできることがあげられる。</li><li>・タブレット端末内の情報を整理して提示するとよい。</li></ul>  |